



2023年2月20日

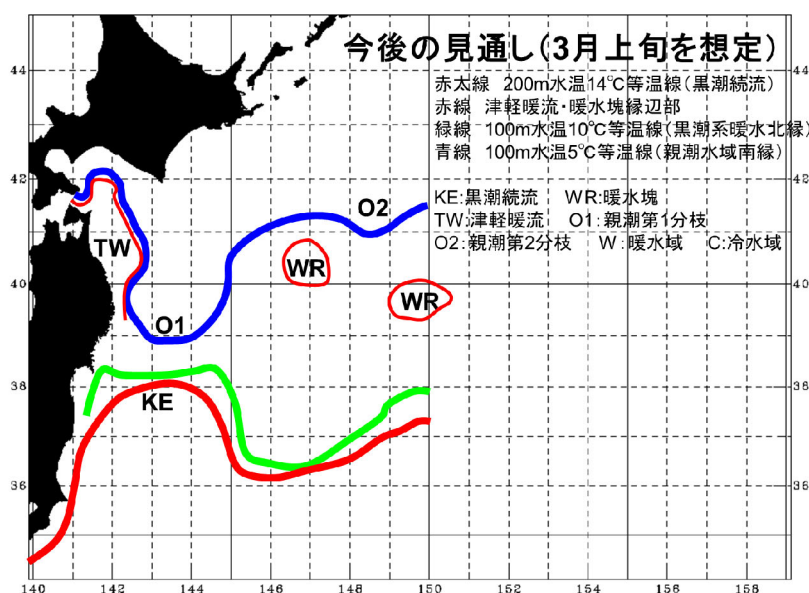
国立研究開発法人 水産研究・教育機構

2022年度 第5回 東北海区海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(2023年2月下旬～2023年3月上旬)のポイント

- ・ 近海の黒潮続流の北限位置は極めて北偏で推移する。
- ・ 親潮第1分枝の張り出しは平年並みで推移する。
- ・ 三陸沖の暖水塊は東進し、三陸はるか沖の暖水塊は停滞する。



問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構
担当：企画調整部門（横浜） 上原
海洋環境部（釧路） 川端、東屋
電話：0154-91-9136、ファックス：0154-91-9355
当資料のホームページ掲載先URL
<https://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>

2022年度第5回東北海区海況予報

《今後の見通し（2023年2月下旬～2023年3月上旬）》

近海の黒潮続流の北限位置は極めて北偏で推移し、親潮第1分枝の張り出しは平年並みで推移する。三陸沖の暖水塊は東進し、三陸はるか沖の暖水塊は停滞する。

《海況の経過（2022年12月～2023年1月下旬）の特徴》

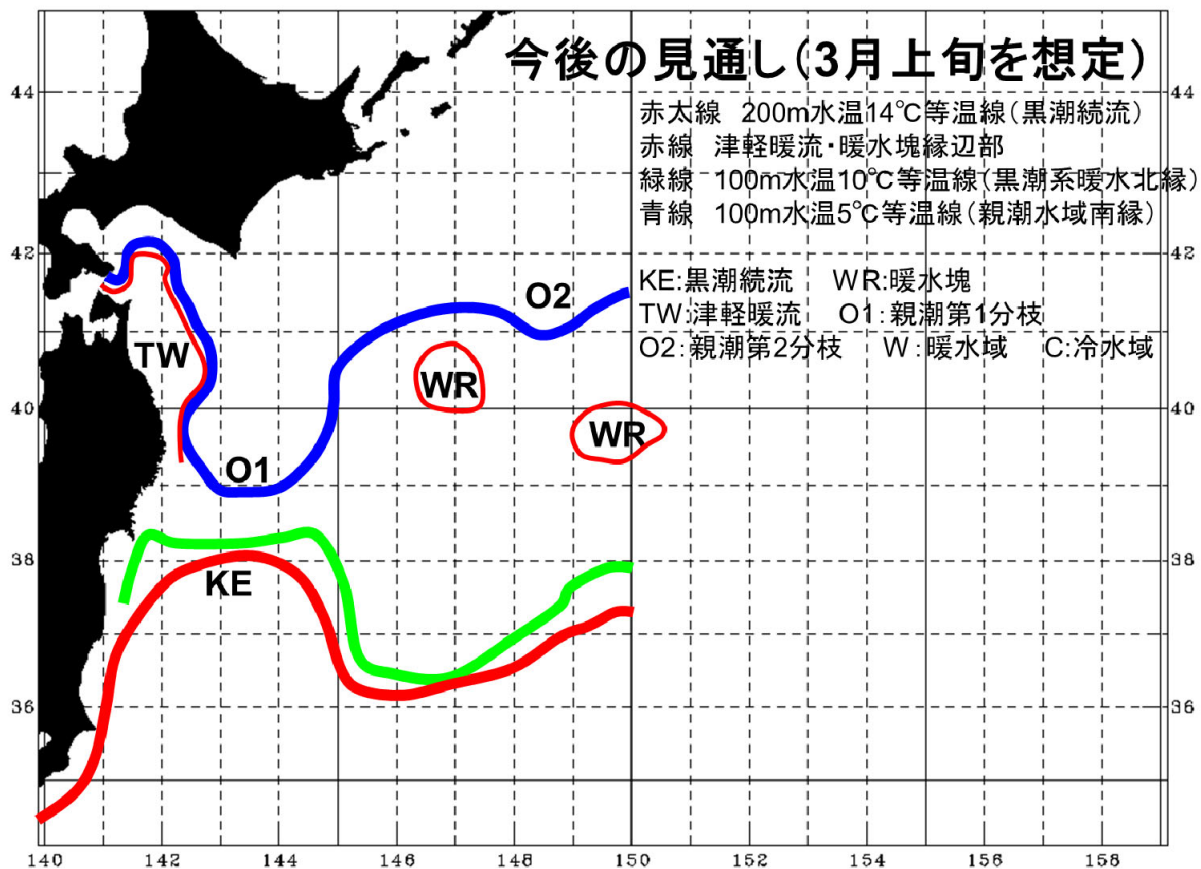
近海の黒潮続流の北限位置は極めて北偏で推移した。親潮第1分枝の張り出しは平年並み～やや北偏で推移した。三陸沖、三陸はるか沖の暖水塊は停滞した。

《現況（2023年2月上旬）の特徴》

近海の黒潮続流の北限位置は極めて北偏、親潮第1分枝の張り出しはかなり北偏である。暖水塊が三陸沖、三陸はるか沖にある。

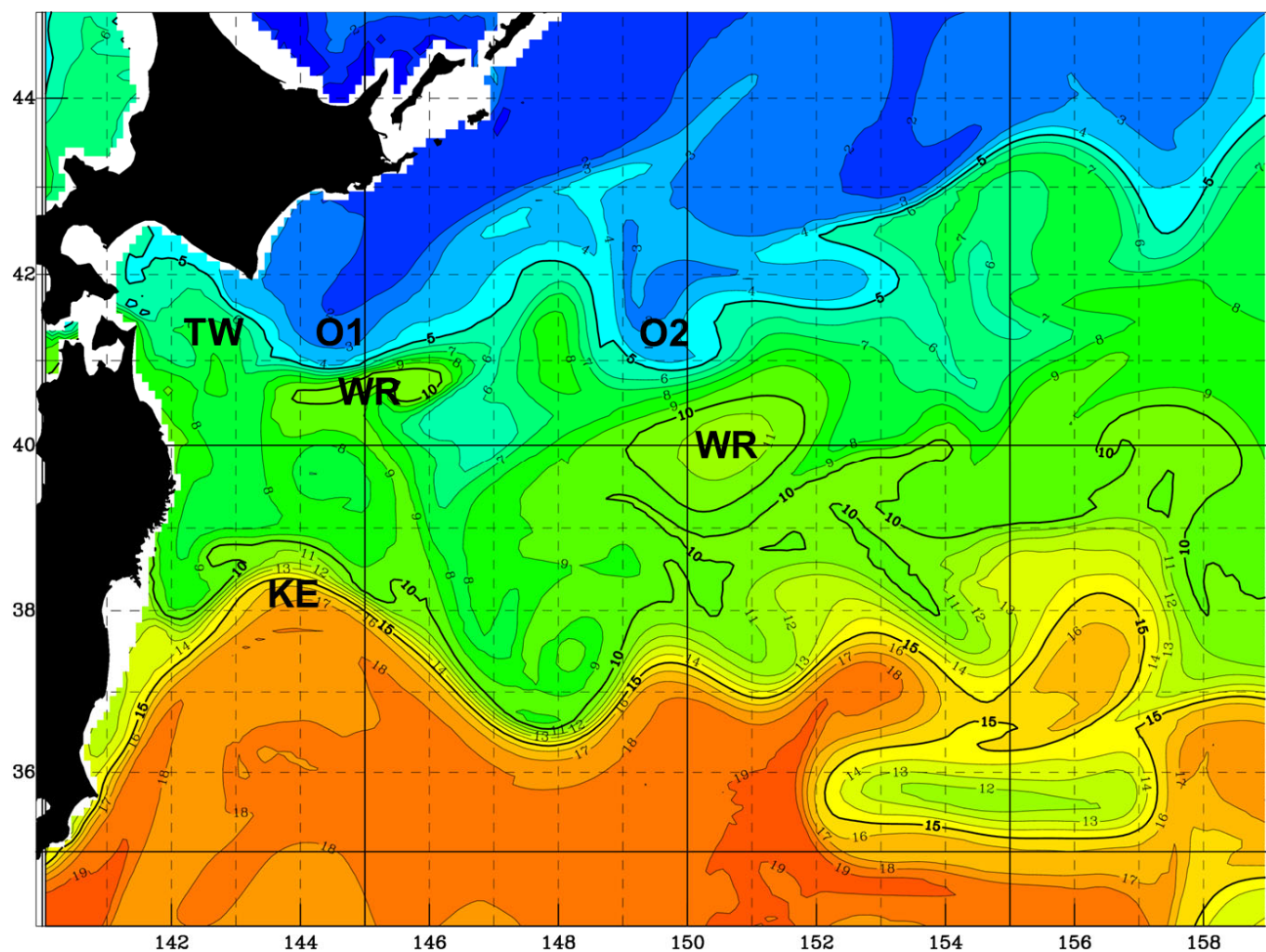
（注）この海況予報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2022年3月より運用を開始したFRA-ROMSⅡシステムを用いた。FRA-ROMSⅡは、我が国周辺海域の海況経過を再解析し、2ヶ月先までの海況を予測する海況予測システムである。

3月上旬予測水温分布図



2月上旬現況水温分布図（100m深）

TEMPERATURE AT 100m DATE: 2023/0201 - 2023/0206



図中の記号はそれぞれO1が親潮第1分枝、O2が親潮第2分枝、KEが黒潮続流、TWが津軽暖流、WRが暖水塊、Cが冷水域を表している。

参 画 機 関

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	(取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所
岩手県水産技術センター	
宮城県水産技術総合センター	
福島県水産海洋研究センター	
茨城県水産試験場	